

園長だより

2017年春号

社会福祉法人 善照福祉会

稲光園



園長コラム

#01

今、稲光園では約6年間、園児の造形について取り組んでいます。造形活動に何故取り組んだのかと言えば、児童画には子ども達の心を見る鍵があると気づいたからでありました。心を開いた保育が、子ども達が喜んで保育園に来る。それが、親も安心して仕事もできるし、子ども達も元気に伸び伸びと育っていくということになってきました。

この度は卒園児さんの児童画を、毎年熊本の美術関係の会場で展示していたのですが、今年は『熊本県立美術館・本館』に稲光園の園児全員の児童画を展示することができました。最高に嬉しかったです。

園長 佐々木 法音



講師紹介

長谷 光城氏
芸術家



1966年に多摩美術大学絵画科（油画専攻・斉藤義重教室）を卒業、1967年から福井県若狭に住み、教職に就きながら作品制作を続けてきた。

斉藤義重に師事して前衛精神を身につけた同氏は、福井を主に活動していた土岡秀太郎が主宰する北美文化協会の美術文化運動に参加、第5回北美大賞を受賞。若狭でも現代美術に取り組む「若美作家集団」（グループ若美）を結成し、現代美術にかかわる活動を果敢に展開してきた。長谷の作品は若狭の地にある紙、木、石、布などの素材を手にして、そのものの日常的な在りようを見つめ、そのものとの語らいの中から産み出されてきたものである。1983年には若狭和紙の原料を用いた立体作品『内部連結Ⅱ』が第16回現代日本美術展で大賞を受賞している。

長谷は美術作家活動と共に教育者として教育改革に取り組む、県立高校長、県教育審議監などを務めた。

また、子どもの造形や絵の研究にも取り組み成果を上げている。このように多彩な才能を発揮して縦横無尽に活躍する長谷の全体像を示した見応えのある作品集となっている。

※著書『長谷光城 Mitsushiro Nagatani』紹介文より抜粋



稲光園『多目的ホール』にて児童の作品を保護者に説明

第9回
いのちかがやく子ども美術展

at 熊本県立美術館－本館－

稲光園平成28年度 卒園児出展作品



5歳11ヵ月



6歳0ヵ月



6歳0ヵ月



6歳2ヵ月



6歳2ヵ月



6歳2ヵ月



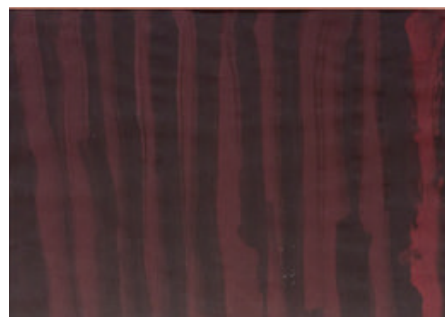
6歳3ヵ月



6歳3ヵ月



6歳4ヵ月



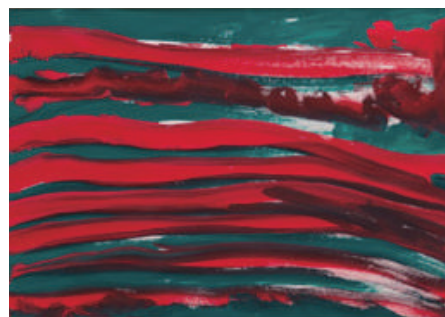
6歳4ヵ月



6歳5ヵ月



6歳6ヵ月



6歳8ヵ月

